

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	3970101675
法人名	有限会社ヴィラドンナ
事業所名	グループホーム ステラ
訪問調査日	平成 19年 12月 11日
評価確定日	平成 20年 5月 14日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日

【評価実施概要】

事業所番号	3970101675
法人名	有限会社 ヴィラドンナ
事業所名	グループホームステラ
所在地 (電話番号)	高知市棧橋通5丁目6-12ステラ棧橋一階 (電話) 088-834-2610

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年5月14日

【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 1 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 6.5 人	

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設	<input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築	<input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り			
	8 階建ての		階 ~ 1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000~50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 有	3ヵ月分	円 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有	(円)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	1,400			

(4)利用者の概要(12月11日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低 68 歳	最高 83 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	細木病院 細木ユニティ病院 梅ノ辻クリニック 植田病院 ありた歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諸事情により、家族の来訪頻度が少ないため、地域とのつながりがより重要となる。生きていることを幸せと思い、このホームで過ごすことを幸せに思えるように、家族としての願いに思いを馳せ、地域との温かいつながりのなかで家族的なケアを提供するなど、ホームと職員に求められる役割は大きい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居室作りではカレンダーや時計を置き、入浴では入居者の希望や状態に合わせた支援を行っている。緊急時の応急手当の研修を行い、契約書に利用者の権利と義務を記載し、理念を見直している。運営推進委員会で地域への啓発を行い、ケアプランには職員の気づきを反映させ、家族の確認、定期的な見直しを行っている。職員の勤務の見直し、研修に努めている。ホームの衛生管理と危険物の管理を徹底し、市町村との情報交換にも努めている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況
	前回評価での指摘を受けて職員全員で取り組み、多くの改善が見られる。市町村との結びつき等はこれからの課題といえ、常勤職員が1名という現状ではあるが、勤務ローテーションは改善されている。ケアプランも改善されており、今後は利用者の状態に応じた見直しなど、さらにレベルアップすることを期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進委員会を定期的に開き、一部の家族には交替で参加してもらっているが、委員会で家族的な意見や思いを検討し、また、地域の意見を大切に、ホームの運営に活かす努力をすることを期待したい。連絡事項が中心にならないように、双方向的な運営を大切にすることを希望する。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪できる家族が少なく苦情が出にくい現状がある。常に家族の視点に立って対応し、声にならない声を聞き、言葉にならない言葉を知っていくことが求められる。小遣いを持たない利用者に対する配慮等も重要である。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入するなど、地域住民としての自覚のもと地域の中で連携づくりに取り組まれない。防災訓練等でも、ホームだけで行うのではなく、地域住民とともに行い、利用者が地域の住民として生きていくために、どのような繋がりが大切かを模索するとともに、他のホームとも交流し、ホームのあり方について共に学ぶ姿勢が大切である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 職員と共に作成した理念である。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容であり、地域住民との交流を加え、職員が常に確認をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 具体的な介護サービスの中で、理念との整合性を職員とともに話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されている。 個々の尊厳を保ちながら、ゆとりのある介護サービスを提供するよう研修やミーティングの中で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 地域との交流は大切にしているが、自治会参加には至っていない。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 保育園のクリスマス会に参加したり、学校や周辺の施設の行事に参加したり、高知女子大生のボランティアを受け入れるなど、積極的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	ホームと地域の連携は、地域の一員としての取り組みが重要であり、自治会への加入等も検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 自己評価は管理者と主任で行い、職員全員で取り組めていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 理念策定や介護計画の作成に職員全員で取り組み、個別記録の充実など、改善計画を立て取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	サービス評価については管理者と主任で自己評価をするのではなく、運営者、管理者、職員全員で取り組むことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでい「改善に向けて家族や地域の意見を聞き、また、その結果をミーティングなどで職員全員に伝え改善に向け取り上げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。	○	ホームの研修への参加要請や講師の依頼など、連携した積極的な取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 来訪できない家族や家族のいない利用者対応として、友人や知人に働きかけ、月に1～2回の来訪を依頼し、情報収集や意見を交換している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 ホームの便りを2カ月に一度送付し、利用者のエピソードなどを知らせている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 心身に変化があった場合、必ず伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 来訪できる家族が少ないため家族会はできていないが、家族の意見を大切にしよう取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 これまで苦情が出ておらず、家族等の来所時には意見を聞き本音を知るよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 引き継ぎの期間を十分に取っていても、守らない職員がいるのでスムーズな移行が難しい。	○	ほとんどが非常勤であるため、退職者が出やすく、また十分な引継期間を設定しても、利用者との馴染みの関係の継続が難しい。常勤職員の増員等の検討が求められる。

5. 人材の育成と支援

10	19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 パートも含めて職員全員が研修や会議に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。		
11	20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 家族が少ない入居者には関係者からの聞き取りし、生活歴や病歴の把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 見学では食事をしてもらうなど、ホームをできるだけ知ってもらう配慮をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 管理者と職員が面接し、様々な視点から情報を収集・分析し、かつ利用者の不安感を除くよう配慮している。		
----	----	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 1ユニット7人という小規模であるため、一人ひとりの特性の把握がしやすく、入居者の立場で生活できるよう支援できている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 一人ひとりの希望や趣向を把握しており、職員と共に和やかに過ごせている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 料理、踊りや方言など、教わる場面がある。踊りの上手な利用者が、他の利用者と職員を巻き込んで踊るなど、笑いとおやかな雰囲気を提供している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 小規模であるが故、日常生活の中で一人ひとりの希望や意向がつかみやすく、変化のある場合はミーティングで話し合い即応している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族や関係者からの情報を得ることを大切にしており、対応が困難な場合は職員間で対策を考えて対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 家族からの情報だけでなく、職員の申送りやミーティングからの気づきを取り入れてプラン作成に反映している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 職員全員で行い、状況変化に応じて再アセスメントを行う仕組みがある。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 利用者の変化に応じて臨機応変に対応している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 利用者の変化や状況に応じて臨機応変に期間設定している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 宅老所、高齢者優良賃貸住宅、訪問介護との併設で、多機能性を生かして支援しており、近隣の診療所などを利用し生活の継続に努めている。 <input type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 終末期ケアは提供していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 公共交通機関の利用により支援を行っている。	○	協力医療機関との連携体制を整え、重度化に対応できるホームの体制づくりを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 かかりつけ医を優先し、症状により転院が必要な際は家族に相談している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 常に本人や家族の希望を優先している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 受診結果に少しでも変化のあるときは家族に伝え、職員で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 <input type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	○	本人や家族に終末期の希望や意向を確認し、必要な医療連携体制づくり、家族、医師、看護師との検討の場づくり等、どういう形で最後を迎えるかの話し合いと、対応指針を持つことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉がけや対応に配慮している。 人前で目立たない、さりげない接し方や、声のトーンへの細心の配慮が求められる。 <input type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 <input type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。	○	言葉遣いや、適切な言葉、声のトーン、プライバシー保護への配慮等を徹底するとともに、個人情報保護法についての職員研修等が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> ひとりひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 一人ひとりの希望を聞き、周辺の散歩や買い物等に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 一人ひとりの思いや状態に配慮し、利用者の生活にあわせている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 調理から後片付けまで利用者の参加があり、調理器具の置き場に名前を記入するなどの配慮が見られる。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 職員全員で食事を共にしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 希望に応じて入浴できる支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。 入浴の拒絶がある場合は時間をおいて声をかけたり、職員を代えて行っている。 入浴以外に清拭等でも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 利用者個々の能力等に応じて、掃除、調理、後片付け、配膳などそれぞれが役割を担っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 日常的に散歩に行っており、近所への買物、タクシーや公共交通機関を利用しての遠方への買物も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 徘徊傾向の利用者もいるが、外出パターンを把握して対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いてい 散歩、買い物を日常的に行っており、近隣商店も利用者の外出を見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的実施している。 年に2回の定期的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常食料・備品を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 個々の好みを献立に取り入れ、栄養バランス、彩り、盛り付けに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 定期的に食材業者の栄養士がチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 リビング兼食堂には音楽が流れ、居心地のいい空間が作られている。装飾品も季節感があり、スタッフの努力が窺える。トイレや風呂場も清潔感がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない 玄関のプランターで季節の花を育て、装飾品も手作りのスタッフの思いが伝わる作品で、好感がもてる。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 音楽や装飾により、利用者の感覚を高める努力が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 生活保護の方で馴染みの家具を求めることが難しい場合には、カレンダー、写真や折り紙などで職員が居室づくりに取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 職員のアイデアや利用者への思いで、写真やカレンダーなど心地よい居場所作りがされている。		